

「日田市農業振興ビジョン」 中間年における見直し・改訂について



日田市農林振興部 農業振興課

1.ビジョン改訂の背景

市の農業振興における新たな潮流 ～国・県・現場の3つの視点から～

I. 国の政策におけるポイント

○食料・農業・農村基本計画……………

<R2.3月改訂時における新たな情勢>

国内マーケットの縮小
食料自給率の低下



需要に対応した生産
活動の展開

高齢化による
農業者の減少



労働力の確保
労働生産性の向上

頻発する自然災害
農地の減少



農地集積
基盤整備

○みどりの食料システム戦略……………

<R3.5月策定時における具体的な取組>

◆化学農薬・肥料の散布量低減

⇒有機農業に関する技術開発と取組面積拡大

◆温室効果ガスの削減

⇒化石燃料を使用しない園芸施設への移行

⇒スマート農業や省エネ型設備の導入

◆ムリ・ムダのない加工・流通

⇒食品製造・流通における省力化・自動化の推進

◆環境にやさしい消費

⇒おいしく、健康に良い食の科学的解明

⇒食品ロス削減や地産地消の推進などの持続可能な消費拡大

II. 県の政策におけるポイント

○おおいた農林水産業活力創出プラン……………

< R2.3月改訂時における新たな展開>

水田畑地化による高収益な園芸品目への生産転換

産地間競争を勝ち抜く生産力の強化

将来を担う稼ぐ経営体の確保・育成

農業を支える多様な人材の活躍

安全で効率的な生産環境の整備

○県農業総合戦略会議……………

<農業システム再生に向けた行動宣言(R3.10月)>

<園芸>

地域特性を生かしニーズのある品目について、関係機関が一体となって産地拡大に取り組む。

<畜産>

作業の外部化・共同利用推進と耕畜連携による堆肥の広域化など、産地拡大のネックとなる構造的課題に対し県全域で取り組む。

<担い手>

担い手を自ら確保し育む産地づくりと、学び続ける経営体の育成を展開し、大分県型担い手育成サイクルを確立。

<営農指導・販売強化>

部会活動を中心とした生産者自らの活動を関係機関が連携して支え、産地拡大を目指す体制の構築。

Ⅲ. ビジョン専門部会の主な意見 (現場の生の声)

○生産振興部会(生産流通班).....

・梨のリース団地の畑地化事業について、条件不利地から生産条件が良く省力化が図られる園地へ移行し、生産性を向上していく。

○畜産部会.....

・堆肥は作物ごとに適期があり、市内だけで全てを使うのは難しい。堆肥処理と飼料費の高騰対策として、自給飼料率の向上や広域流通も考えていくべき。

○内水面部会.....

・天然資源の減少等によりアユなどの放流種苗の確保が難しくなっているため、種苗の供給元をいくつか選定しておく必要がある。

○生産振興部会(担い手班).....

・新規就農者は就農初期にしっかりサポートしていくことが必要。「栽培技術」・「資金、経営」・「農地」などサポート体制を充実すべき。

○農村基盤部会.....

・畑地化をすすめる上で、適した場所や品目の選定など生産振興と連携した基盤整備が重要。
・ため池については、受益が少ないが防災・減災の観点から整備は必要。整備をすすめ事前放流等で災害の抑制につとめる必要がある。

I 日田市の農業振興におけるポイント (Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを踏まえた、新たな潮流)

◆生産振興.....

<共通>

①省力化・機械化技術の導入【専門部会(生産流通)】

<園芸>

②米から高収益園芸品目への転換【専門部会(生産流通)】

③園芸産地づくり計画の策定【県戦略会議】

<畜産>

④自給飼料・良質堆肥の生産と堆肥の広域流通

【専門部会(畜産)、県戦略会議】

⑤環境に配慮した畜産業の実現【専門部会(畜産)】

<内水面>

⑥安定的な種苗供給の実現【専門部会(内水面)】

<販売>

⑦新たな販路開拓・商品開発の促進【専門部会(生産流通)】

⑧安心・安全な農産物の普及促進【専門部会(生産流通)】

<その他>

⑨農業を学びのツールとした交流人口の増加【第2回推進委員会】

◆担い手対策.....

⑩新たな担い手への農地集積・集約化の促進【専門部会(担い手)】

⑪新規就農者等のサポート体制の整備【専門部会(畜産)、県戦略会議】

⑫集落営農支援体制の強化【専門部会(担い手)】

◆生産基盤の整備.....

⑬水田畑地化や作業効率化に向けた基盤整備【専門部会(基盤)】

⑭多発化する災害への対応【専門部会(基盤)、第2回推進委員会】

Ⅲ

Ⅱ

2.ビジョン改訂のポイント

(1)主な改定内容一覧 ※カッコ内の番号は2ページ「日田市の農業振興におけるポイント」の項目に対応。

基本目標	基本方針	基本施策	主要施策(改訂原稿ページ)	主要施策のポイント(追加・変更点)	
日田らしい足腰の強い農業と活気ある農村社会をつくる	『稼ぐ農業』を目指す	Ⅰ 日田の強みをいかす	1 果樹・野菜・花卉・米等の安定生産と生産拡大(P22)	・【共通】…スマート農業技術の導入による機械化・省力化(①) ・【果樹】…傾斜地から平坦な樹園地への移行、梨選果場の再整備(⑬, ③) ・【野菜】…ピーマン広域選果場利用による安定生産と省力化(③) 高収益な園芸品目の生産に向けた水田畑地化の推進、園芸産地づくり計画の作成(②, ③)	
			3 産直野菜の生産拡大と出荷体制の整備(P25)	・地域内の堆肥を活用した土づくりによる品質の向上(④, ⑧)	
			4 足腰の強い畜産業の振興(P26)	・自給飼料生産の拡大(④) ・堆肥の広域処理連携に向けた検討(④)	
			5 内水面資源の維持と活用(P27)	・漁協と連携した安定的な稚魚や卵の確保等による内水面資源維持(⑥)	
		Ⅱ 創意工夫で販路拡大を目指す	2 百貨店、量販店、外食産業等のニーズに対応した販売企画、商品開発の推進(P29)	・新たな販路開拓に向けた、生産者によるインターネット通販の促進(⑦)	
			3 地域ブランドづくりとPR(各種フェアの開催等)(P30)	・GAPによる食品の安全や環境保全等、持続可能な生産工程管理の取組等を通じたブランド力の強化(⑧)	
			5 農商工親の連携・6次産業化への展開(P32)	・農協、部会、企業と連携した商品開発及び認知度向上(⑦)	
			6 農産物の輸出に向けた取組(P33)	・日田梨の輸出拡大を図るための梨保冷库の増設や選果場の再整備(③, ⑦) ・海外に通用するGAP認証制度の普及促進(⑦, ⑧)	
	『活躍する農業』を目指す	Ⅲ 元気な担い手を育てる	1 担い手の明確化と農地の集約(P34)	・農地利用や農業経営の在り方について、地域での合意形成を図るため人・農地プランの実質化の推進(⑩) ・離農の意思がある農業者の経営資源情報の整理(⑩)	
			2 集落営農の育成・法人化(P35)	・集落営農組織経営の安定化に向け水田畑地化等による高収益な園芸品目導入の推進(②) ・集落営農支援体制の強化や経営発展に向けた法人化への取組の推進(⑫)	
			3 新規就農者や農業後継者の確保・育成(P36)	・新規就農者の経営安定・定着に向けたサポート体制の充実(⑪) ・経営体の育成と担い手確保が連動していくサイクルの確立を目指し、模範となる経営の明確化(⑪) ・部会等を中心とした担い手確保に向けた第三者継承円滑化のための経営資源情報のリスト化(⑩)	
			5 包括的な農業支援体制の強化(P37)	・担い手をサポートする体制の整備に向けた関係機関等との連携強化(⑪)	
		Ⅳ 使える農地を増やす	1 生産基盤として有効な農地確保や農業用水施設の整備・更新(P38)	・水田畑地化の計画や栽培品目の選定など、集落ごとの農地の利活用実態に応じた基盤整備の推進(⑬) ・災害に強い生産基盤づくりや災害発生時の早期復旧・復興(⑭) ・関係機関が連携して取り組む流域治水の推進(⑭)	
		農業『感動する』を目指す	Ⅴ やさしい農業を目指す	2 地域循環を目指した環境にやさしい農業の実現(P42)	・臭気対策等の環境に配慮した畜産業の推進(⑤)
			Ⅵ 魅力ある農村を築く	3 グリーンツーリズムの推進(P46)	農業を学びのツールとして、魅力ある農村地域における学びや暮らしの体験による交流人口の増加と定住促進(⑨)

重点施策のポイント

1 担い手をサポートする体制の整備(⑪)……………P48

◆大山町農協、大分県農協西部事業部それぞれの担い手のサポートに向けた取組を支援し、相互連携による地域農業の振興と農村の活性化をサポートする体制の整備を目指す。

2 日田の風土に合った循環型農業の実現(④, ⑤)……………P49

◆県域ネットワークを構築し、耕畜連携による域外への堆肥の広域流通
◆豚ふん尿については、自然エネルギーの利用を行うため、新たな処理方法について実証実験等を行いながら検討する。

(2)重点施策の主な改訂内容

改訂版:P48

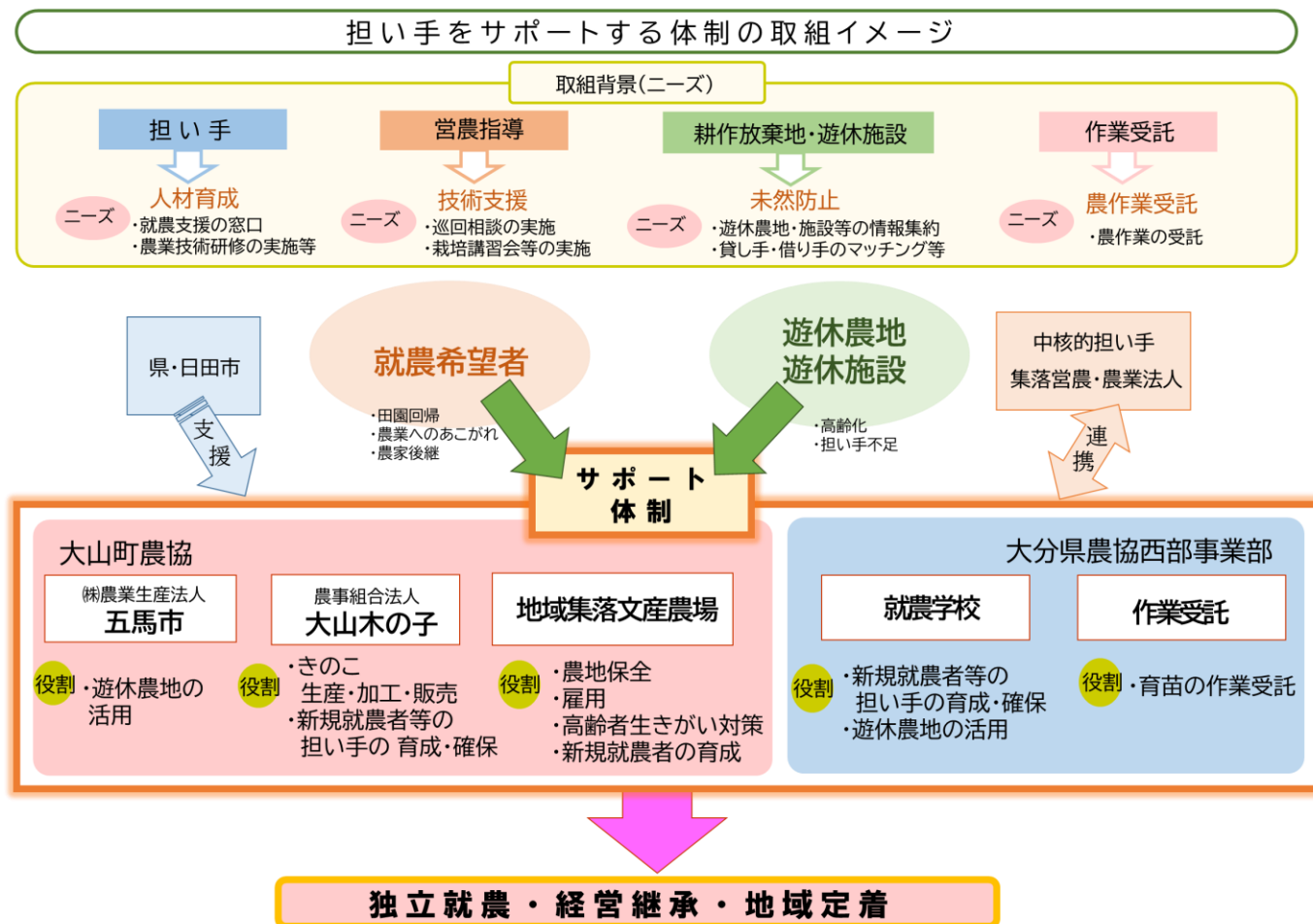
[重点施策] 1 担い手をサポートする体制の整備

<改訂前>

●農地の遊休化・荒廃への対処、農作業の受託、担い手の育成などを担う組織として「JA出資型法人」の立ち上げ、地域農業の振興と農村の活性化をサポートする拠点づくりを目指す。

<改訂内容>

●農地の遊休化・荒廃への対処、農作業の受託、担い手の育成、営農指導などのニーズに対応する県農協・大山町農協それぞれの取組を支援し、**両農協との相互連携**による地域農業の振興と農村の活性化をサポートする体制の整備を目指す。



〔重点施策〕 2 日田の風土に合った循環型農業の実現

<改訂前>

●堆肥センターの整備による良質な堆肥生産と適正な排水処理を推進するとともに、生産された堆肥を活用した農産物の生産や、飼料生産を基軸とした耕畜連携による循環型農業を実現する。

<改訂内容>

●上記の地域内循環の実現に加え、県域ネットワークを構築し、堆肥のペレット化の促進や供給体制の整備を通じた域外への堆肥の広域流通について関係機関と連携して取り組む。

●豚ふん尿の新たな処理方法について実証試験を行いながら検討する。

